

令和6年度

「運営に関する計画」

大阪市立 諏訪小学校

令和6年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査並びに、小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は、(全国学力・学習状況調査: 本校 74.8%、全市 82.1%) (小学校学力経年調査: 本校 72.55%、全市 83.05%) となっており、共に全市平均を大きく下回っている。また、令和 5 年度の全国学力・学習状況調査並びに、小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は、(全国学力・学習状況調査: 本校 66.7%、全市 81.1%) (小学校学力経年調査: 本校 68.25%、全市 78.55%) となっており、全市平均を大きく下回っている。そのため、児童が安心して楽しく学校で過ごし、自分に自信をもつことができるようになる取り組みを進めていくことが必要である。
- 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査並びに、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は、(全国学力・学習状況調査: 本校 23.2%、全市 34.7%) (小学校学力経年調査: 本校 33.45%、全市 41%) となっており、全市平均を大きく下回っている。そのため、授業の中での話し合い活動をより深く取り組んでいかなければならない。
- 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査並びに、小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、(全国学力・学習状況調査: 本校 62.0%、全市 63.2%) (小学校学力経年調査: 本校が 67.3%、全市の 68.975%) をわずかながら下回っている。本校において近年の全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果も市平均を下回り続けていることから、体を動かすことの楽しさを感じられるような取り組みを行っていく必要がある。
- 学習者用端末の利活用を一層深め、話し合い活動の深化を進めていく。
- 教職員の中で 20~30 代の占める割合が高く、育児や介護などの事情を抱えながら働くものも多くいる。教職員の連携を密にすることや研修を充実させることで、効率的に勤務することができるようにしていく必要がある。

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を74%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に87%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和6年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。(令和5年度 72.55%)
- ・令和6年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を69%以上にする。(令和5年度 68.25%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を34%以上にする。(令和5年度 33.45%)
- ・令和6年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。(令和5年度 67.3%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和6年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和6年度末に86%にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立 (諏訪小学校) 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。（令和5年度72.55%） 令和6年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を69%以上にする。（令和5年度68.25%） 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 学年（異学年）や学級での活動を充実させて、仲間づくりを進める。	
指標 学級での仲間づくり活動を月2回以上、学年や異学年（ペア学年）での活動を年2回以上行う。主に20分休みや昼休みを学級活動に、学活や総合、生活の時間を学年や異学年活動に活用する。	
取組内容②【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 友だちのいいところを見つけたり、学校で楽しかったことを話したりする場や、友だちのことを知る（友だちと関りを持つ）活動を設定する。	
指標 帰りの会や学活の時間など、学級の実態に合わせて、「いいとこみつけ」などの活動を週3回以上取り組む。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立（諏訪小学校）令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 34 %以上にする。（令和 5 年度 33.45%） 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68 %以上にする。（令和 5 年度 67.3%） 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 自分の考え方述べることができる児童を増やすため、様々な学習活動において積極的に話し合う活動を取り入れる。話し合う人数の工夫（ペア・グループ等）、話型の提示、振り返りの時間の確保などの手立てを講じる。</p>	
<p>指標 学習活動を行う日において、1日1回以上、話し合う活動を取り入れる。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 指導者の体育学習の指導力向上のために、校内研修会を行う。</p>	
<p>指標 年間3回以上、校内で体育学習についての研修会を行う。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 体を動かすことの意欲・関心を高める。</p>	
<p>指標 体を動かす強調週間を年に3回以上実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立 (諏訪小学校) 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を、令和 6 年度末に 86 % にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向番号 6、教育 DX の推進】</p> <p>学年に応じた学習者用端末を活用する取り組みを行う。低学年はデジタルドリル、中学年はスカイメニューもしくはパワーポイント、高学年はパワーポイントに重点的に取り組む。</p>	
<p>指標</p> <p>低学年はデジタルドリルを週 1 回以上、中学年はスカイメニューか、パワーポイントを活用した学習活動を学期に 1 回以上、高学年はパワーポイントを活用した学習活動を学期に 1 回以上行う。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向番号 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員の時間外勤務を減少させるような工夫を行う。</p>	
<p>指標</p> <p>週に 1 度、ゆとりの日を設定する。</p> <p>2 学期制を導入し、行事等をより弾力的に行うことで業務の効率化を図る。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	